

を与え社会を変える。かくて、災害は避けられないものといわざるを得ない。では、防災の仕事は無意味なことであろうか。筆者の仕事上だけでなく人生の師でもある、国立防災科学技術センター前所長菅原博士のお話[5]を引用して、その答としよう。

「災害は避けられないからといって、それを防がないのは、人はどうせ死ぬのだからといって不養生をするようなものである。さいの河原に石を積むように、崩されても崩されても努力を続けるのが、生きるものの悲しい営みであり、務めであ

ろう」

参 考 文 献

- [1] 大蔵省理財局：金融事項参考書，大正13年～昭和10年
- [2] 大島 清：高橋是清，中央公論社，1969
- [3] 内閣統計局：日本帝国統計年鑑，大正13年
- [4] 総理府統計局：日本統計年鑑，昭和52年
- [5] 菅原正己：災害と防災，日本の科学と技術，No. 64，9月号（1965），28ページ  
（わたなべ・いちろう 国立防災科学技術センター）

●グラフを楽しむ●

グラフ理論の研究でちょっとした実験を試みたくなった時、手近にグラフがそろっていると便利である。こういう性質のグラフを捜したいとか、あるいは存在しないのかなどと考えながら、パーソナルコンピュータにできの悪いプログラムを組む。1週間ほど、動かしつづけることをものともせず、ひたすら待ちつづける。夜中にそと起きて中間結果に目を通し、プランデーをなめながらアレコレ妄想にふける。そして苦しむ。

こういう態度でグラフ理論を研究したい方に、当研究所ではソフトウェアのサービスをいたしたく用意して待っております。まずはサンプルを。図は単純連結グラフをしらみつぶしに作った一部。8点までのグラフをすべて列挙するとかなりの数、これをデータベースにして、楽しんでいきます。

寺野隆雄・坂内広蔵  
(電力中央研究所)

(図の説明)

7点の単純連結グラフ（総数853個のうちの一部）。線の少ない順に並べてある。上図は表の初めの部分。下図は表の終りの部分。

